

豊島区が目指しているのは、どんなまち？

国際アート・カルチャー都市

「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」
を将来像に。

SDGs未来都市

誰一人取り残さず、持続発展する都市を
つくりあげる。



「オールとしま」でのまちづくり

一緒にまちをつくりあげていきませんか！？

国際アート・カルチャー都市
推進PRキャラクター
そめふくちゃん

国際アート・カルチャー都市×SDGs未来都市

豊島区は、2014年に、民間有識者組織「日本創生会議」から、東京23区で唯一「**消滅可能性都市 ※1**」と指摘されました。

このピンチをチャンスに変えるべく、持続発展する都市として、「**まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市**」を将来像に、「国際アート・カルチャー都市」の実現に向けたまちづくりを進めています。

持続可能で「**誰もが主役になれる**」まちを目指す「国際アート・カルチャー都市」への歩みは、「**誰一人取り残さない**」社会への実現を目指すSDGsの理念と同様の考えに基づくものと言えます。

豊島区は、SDGsの視点を踏まえ、さらに持続発展する都市の実現を目指します。

※1 消滅可能性都市・・・2010年から2040年にかけて20～39歳の女性が50%以上減少すると推計された自治体が指摘された。



消滅可能性都市から持続発展する都市へ

国際アート・カルチャー都市構想、そして特命大使の歩み

- 2014年10月 芸術文化の最前線で活躍する国際アート・カルチャー都市プロデューサー11名を任命
- 2015年3月 国際アート・カルチャー都市構想策定
- 2015年11月 元文化庁長官の近藤誠一氏を会長に、文化芸術のトップリーダーを始めとする31名による国際アート・カルチャー都市懇話会を設立
- 2016年1月 国際アート・カルチャー特命大使認定式、特命大使の活動開始
- 2016年3月 国際アート・カルチャー特命大使結団式
- 2016年6月 国際アート・カルチャー都市懇話会にて答申
- 2016年8月 国際アート・カルチャー都市構想実現戦略を策定
- 2020年7月 内閣府より東京初の快挙である「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」をダブル選定
- 2020年9月 まちの舞台の完成を機に、SDGs未来都市の実現も見据え「新・特命大使制度」を設立
- 2021年4月 事務局を豊島区から公益財団法人とし来未来文化財団へ移管

豊島区は、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を将来像として、2014年より、**文化芸術のトップリーダーや区民・地域団体のみなさん**と共に、歩みを重ねてまいりました。

国際アート・カルチャー特命大使／SDGs特命大使とは

① 豊島区が目指す
「国際アート・カルチャー都市」「SDGs未来都市」
の実現に向けた**活動の担い手**です。

② としまの魅力を区内外に発信する等、
この都市構想に**賛同する方々**です。



としま未来文化財団
マスコットキャラクターとまもん

2,100名が賛同（令和4年12月末日時点）

【賛同内訳】

個人852名／学生32名／子ども36名

98団体(114口・228名)／171企業(238口・952名)

特命大使ってどんな活動をするの？

発信

都市構想の実現に向け、としまの魅力を区内外に発信

参加

意見交換や、地域イベントなどへの積極的な参加

発見

特命大使専用ウェブサイトや会報を活用した情報収集

企画

特命大使自身でのイベントなどの
自主企画事業を発信・展開



**“好き”を広げる、つながる。
まちづくりの立役者に。**

としま未来文化財団
マスコットキャラクターとしまん